

2020年5月10日 主日礼拝説教要旨: マラキ書シリーズ①

マラキ書5:1~5 「神の愛と選び」

高井 卿 介

5年前から創世記、福音書と共に小預言書を礼拝で話して来たが、小預言書はマラキ書を残すのみとなった。そこで今回からこれを取り上げて話して小預言書を完了としたい。

I. 預言者マラキとは

預言者マラキについては、その素性が記されていない。普通ユダヤ人は父親の名前と共に名乗っている。「アモツの子イザヤ」「ヒルキヤの子エレミヤ」など。しかし、彼にはそれがない。また、預言者は身分や職業を記している。「ブジの子、祭司エゼキエル」「テコアの牧者の一人であったアモス」などと。しかし、マラキにはそれがない。

しかも、「マラキ」とは、果たして本名かどうか疑われている。と言うのは「マラキ」は原文では「マルアヒー」となっていて、3:1の「わたしの使者」と同じ発音であるから。しかし、彼は自分が神から「わたしの使者」とされた確信を持った預言者であったことは確かである。

II. マラキ書の特徴

マラキ書のユニークな点は、対話形式の文章となっていることである。例えば2節で、主が「わたしはあなたがたを愛している」と語られているのに対して、イスラエルの民は「どのようにし、あなたが私たちを愛されたのですか」と返している。

これは対話のように見えるが、実質的には神と民との間には対話はなく、寧ろ断絶状態と言えるものであった。

この神と民との対話は、殆ど神からの語りかけで始まり、それに対して民の答えは、「どのように」「どのようにして」と言うのが6回(1:2, 6, 7, 2:17, 3:7, 8)、「なぜ」(2:14)、「何を」(3:13)が1回である。

これらは返答と言うより、反論と言えるものであり、開き直り、不貞腐れである。更に、3:14に至っては、「神に仕えるのはむなしい」とは、神の民の口から出る言葉としては到底考えられないものである。

III. 「わたしはあなたを愛している」

それでも神はイスラエルの民に対して、開口一番「わたしはあなたを愛している」とマラキは伝えた。これは信仰的に落ちぶれたイスラエルの民の原因を、思い巡らしていたマラキが達した結論であった。

しかし、果たして彼らには、神が「わたしはあなたを愛している」と言われたことに、納得出来たであろうか？ 答えは「否」であった。

何故なら、イスラエルの民は、「どのように、あなたが私たちを愛されたのですか」と、問っているからである。そのことを真に理解するには、新約聖書を待つしかなかった。

それは、ヨハネによる福音書の代表的聖句である3:16、「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。…」である。これが「どのように…愛されたのですか」の真の答えである。

(使用聖書は「新改訳聖書第Ⅲ版」)